松島町歴史文化基本構想

（概要版）

平成30年　3月

策定の目的

松島は日本三景の一つとして、古来より多くの人々を魅了し続けてきました。その魅力は大小 260 余の島々が織りなす自然美と、国宝瑞巌寺本堂をはじめとする学術的にも価値の高い数多くの文化遺産に代表されます。

その一方で、豊かな自然を背景として昔からこの地に暮らしてきた多くの人々によって守られてきた、漁村や里地里山を中心としたもう一つの松島があります。この景観の中に佇む有形無形の文化財は、「観光地松島」の陰に隠れがちですが、日々の営みの中で、人と人とを結びつけるような大切な役割を果たしてきました。

今後、松島が持続的に発展していくためには、松島で生活する人々が、自信を持って松島固有の美しい自然景観と歴史・文化景観等を後世に継承し、さらに新たな息吹を与えながら、誇りを持てる景観を創造し、暮らしを守っていく事が大切です。

そこで「文化財の総合的な保存・活用の推進」を目標として、「松島町歴史文化基本構想」を策定します。

「松島町歴史文化基本構想」の基本的考え方

歴史文化基本構想とは

地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて的確に把握し、
文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、
地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な指針となるもの

国の文化財行政の動向をふまえて、松島町では策定にあたって下記の三つの作業を行いました。

①歴史文化の特徴、地区区分と地域ごとの歴史文化資源を把握します。
②文化財を魅力あるストーリーとして抽出できる関連文化財群として捉え直します。
③文化財が置かれた現状と課題を保存・活用の側面から把握する事で、今後の文化財行政の基本的な考え方と方針を示す事とします。

松島町の地区区分と地域の歴史文化資源

松島町の町域は、丘陵の尾根によって隔てられたいくつかの区域によって構成されており、そこには古くからの地域特性と景観がそのまま息づいています。

大きく捉えると、松島湾に近接する「松島海岸」「磯崎」「手樽」、松島丘陵の北東端に位置し、吉田川方面に開ける「竹谷・北小泉」「根廻・幡谷」、松島丘陵中央部の尾根に囲まれた「初原・桜渡戸」「高城・本郷」にわかれ、それぞれの地域で異なった特徴が見られます。

初原・桜渡戸

高城宿で石巻街道から分岐する吉岡路は、初原や大谷（現黒川郡大郷町）を経て吉岡宿（現黒川郡大和町）へ通じていました。初原にはかつて瑞巌寺末の尼寺がありました。山の麓には15世紀頃の板碑が確認されており、南北朝の末期頃には集落が形成されていた事がうかがわれます。桜渡戸には、丘陵と高地によって挟まれた峡谷があり、その両側の山地山道が高城宿へ通じる交通路として利用されてきました。

根廻・幡谷

根廻は面積の大部分は山林で、高城の館山城跡の「根方に帯たる村」として知られていました。富山・幡谷・高城宿などへ通じる交通の要衝で、かつては4代藩主綱村が吉野の桜樹一千余株を植え、往還の際にこれを賞したと伝えられています。

幡谷は北に品井沼が広がり、古くから低湿地が広がっていました。元禄・明治期の干拓に関わる土木遺産をみることができます。松島丘陵の一部が品井沼に向かって張り出した斜面地には、7～8世紀頃に造営された蝦穴横穴墓群が立地しています。

竹谷・北小泉

竹谷は、品井沼と鳴瀬川によって画されており、品井沼干拓の際に入植した人々によって諸集落が形成されました。

北小泉は、ほぼ全域が松島丘陵地帯に属しており、そこに深く入り込んだ鳴瀬川の氾濫原が耕地と生活の場として展開されていました。

手樽

古くは手樽湾が深く入り込み、複雑な海岸地形が形成されました。多くの遺跡が存在し、縄文時代の昔から採集経済の適地であったと考えられています。

松島四大観の一つ「富山」には坂上田村麻呂にちなむ観音堂が建立されています。

現在見られる干拓地は、昭和になって土地の人々が苦労を重ねて耕地化してきたものです。

高城・本郷

中世には高城保と呼ばれる所領地で相馬氏が地頭となっていました。近世には高城宿として、奥州街道に通じる吉岡路、松山涌谷路、石巻街道の三道の分岐点として繁栄を極めました。現在も残る、宿場町特有の短冊形地割が往時を偲ばせます。

松島町の総鎮守とされる紫神社や、愛宕駅西側の丘陵尾根伝いには、中世の山城である館山舘跡が残っています。

磯崎

江戸時代には隣接する高城・本郷の塩田の収蔵監督機関である「お塩場」や、藩米取扱所の磯崎御倉がありました。

また、瑞巌寺正面にあたる雄島～福浦島は民船の発着が禁じられていたため、東からの商漁船は全て磯崎に発着し、西からの商漁船は松島海岸の霞浦にそれぞれ発着していました。

松島海岸

国指定特別名勝松島の中心部に位置しています。湾内には松島群島と総称される島々が点在し、一大景観をなしています。

古刹瑞巌寺をはじめとして寺社が多く、古くから奥州一の霊場として人々の崇敬を集めていました。

松島町の関連文化財群と歴史文化ストーリー

地域が保有する多様な文化財は、時代や地域の特色から一定のまとまりを持つグループ「関連文化財群」として捉えることができます。

各地区が保有する文化財群や、地区をまたいで関連するエピソードを持つ文化財群についてグルーピングを行い、特色ある五つのテーマを設定しました。今後、魅力あるストーリーとして活用を図っていきます。

A　１０００年の霊場　松島

崇敬を集めた松島の絶景と、今も残る霊場の痕跡

大小様々な島が浮かび箱庭のような景観を呈する松島は、周囲を丘陵によって囲まれた秘境ともいうべき場所でした。その景観は「奥州の高野」とも称され、その象徴としての雄島は東方浄土への架け橋ともみなされていました。

B　伊達家の奥座敷　松島

伊達政宗の「とっておき」と、伊達家ゆかりの品々

伊達政宗は、慶長 9 年（1604）の五大堂造営を皮切りに、当時廃れていた松島の寺社を復興していきます。政宗自らが縄張りして復興した古刹瑞巌寺を中心に、伊達家の近親者が弔われるプライベートな性格から、数多くの伊達家ゆかりの品々が残されています。

C　文人墨客をも魅了した景勝　松島

古からの歌枕の地、旅人が憧れた景勝地

松尾芭蕉を始めとした多くの文人墨客の作品の中に取り上げられることで、多くの旅人が訪れたいと願う「観光地」としての色合いが強くなっていきます。

D　縄文時代から続く豊かな海　松島

連綿と続く海の仕事と暮らし

現在よりも温暖だった縄文時代には内陸まで海が入り込んでおり、貝塚も松島湾全体に広く分布しています。海水を利用した塩づくりも盛んに行われ、古代には鎮守府が置かれた多賀城とその城下の需要を満たし、江戸時代には仙台藩の塩田が広がります。

E　品井沼干拓の偉業を伝える田園　松島

新田開発と治水を目指した人々の苦難の道程

松島の北部に位置する品井沼は鳴瀬川の自然堤防に吉田川が流入して作った湖沼で、宮城・黒川・志田三郡にまたがる大沼でした。江戸時代から干拓の努力が続けられた結果、現在の美田があります。地域に残る石碑や社からはかつての農村の姿がうかがえます。

歴史文化ストーリーを構成する文化財の数々

松島町の５つのテーマを構成する、多様な文化財。
ここでは、各テーマの要素となる文化財から、とくにストーリーの理解に役立つ、関連性の強い個別のエピソードについてご紹介します。

A　１０００年の霊場　松島

・「天台由緒記」「都のつと」に見る古の松島と、頼賢碑、中世板碑群と雄島
・瑞巌寺周辺に残る無数の岩窟と近世供養塔群
・「松島諸勝記」にみる紅蓮尼、西行戻しの松などの説話、大施餓鬼会と流灯会などの仏教行事
・「五大堂本尊木造五大明王像」や「三聖堂本尊木造聖観音菩薩立像」

B　伊達家の奥座敷　松島

・伊達政宗による五大堂再建と瑞巌寺造営
・伊達家の菩提寺～瑞巌寺・陽徳院・圓通院・天麟院
・藩主の納涼・観月の仮殿・観瀾亭
・松島博物館資料として伝わる伊達家ゆかりの品々

C　文人墨客をも魅了した景勝　松島

・歌枕の地・松島、松島四大観、「松島真景図」に描かれた古の松島
・「おくのほそ道」の景勝地、数々の紀行文、歌碑・句碑の数々
・江戸期の名所図会、明治期以降の観光案内や古写真
・旧東北本線山線や松島電車などの近代遺産

D　縄文時代から続く豊かな海　松島

・西の浜貝塚、道珍浜貝塚、永根貝塚、福浦島貝塚などに見る漁労の痕跡
・名込遺跡、九ノ島貝塚などに見る製塩の痕跡
・高城塩田とお塩場の記録
・「松島石」と呼ばれる凝灰岩の石材利用

E　品井沼干拓の偉業を伝える田園　松島

・元禄潜穴、ずりだし穴、お墓山、おまん地蔵に見る江戸期の苦難
・明治潜穴、一分間停車の碑、大友橋に見る明治期の苦難
・吉田川サイフォン、越流堤、早川堤防、佐助堤防に見る洪水との戦い
・在郷屋敷と文書が伝える当時の人々の暮らし

関連文化財群の活用

五つのストーリーとして抽出した「関連文化財群：テーマ」について、それぞれの特性にあった活用・保存を図っていきます。また、これらのストーリーを中心としたリレー講座等を企画し、町民への普及を図っていく予定です。

以下は各テーマについての、個別の活用の取り組みや検討課題です。

A　１０００年の霊場　松島

「松島」の基本的要素であり、すべての土台となる部分です。天台宗延福寺の存在と雄島を中心に形作られた霊場のイメージが臨済宗円福寺の開基へと繋がり、円福寺の再興が意識されたからこそ伊達政宗の瑞巌寺建立へと繋がっていきました。地形や街並みが大きく変わり見過ごしがちですが、1000 年の霊場の痕跡は今も町のそこかしこに埋もれています。今後は、魅力ある人物の逸話紹介など「わかりやすく伝える工夫」とともに、各種講座やパンフレット制作などを基にした「確かな歴史的事実」の周知にも取り組みます。

B　伊達家の奥座敷　松島

現在、観光の主となっている文化財群です。政宗の個性や親族とのエピソードなどを掘り下げ、より魅力的に伝える工夫を目指します。日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」の構成要素でもあり、既に活用のための取り組みも始まっています。また、これまで以上に若い層や外国人観光客向けの工夫も必要です。大施餓鬼会や流灯会といった伝統的な宗教儀礼を基にした「海の盆」「灯篭流し」等は、儀式本来の意味を伝えつつ「生きた文化遺産」として今後も活用されていく事が望まれます。

C　文人墨客をも魅了した景勝　松島

文学作品や絵画に描かれており、追体験が可能な文化財群です。その特徴を生かして、歴史体験アプリ「松島ダテナビ」では、松島海岸地区の風景の古写真を AR（拡張現実）で体験したり、「おくのほそ道」のルート上で芭蕉と曽良による解説が受けられたりするようにしました。今後は、当時の旅人が歩いた道に沿って街歩きをするイベントなども実施していきます。また、近世の名所図会や紀行文、近代の観光パンフレット等の収集・展示公開を行い、新たな松島の魅力発見へと繋げていきたいと考えます。歴史的建造物の公開活用も視野に入れていきます。

D　縄文時代から続く豊かな海　松島

歴史文化に裏付けられた「松島の食」に繋がる文化財群です。緑松会館旧蔵資料の中には松島湾の漁撈に関する資料が多く残され、海をテーマとしたストーリーが広がります。時代を大きく超えたストーリーとして磨き上げていく必要があります。

民具等は学校教育の中で「昔のくらし」として必ず登場する資料でもあり、何らかの公開施設を設ける事で、社会科教育の素材として活用を図る事ができます。

E　品井沼干拓の偉業を伝える田園　松島

土木遺産として残る潜穴や広い水田となった干拓地など現在の景観から当時の情景を思い浮かべる事ができる文化財群です。宮城県の小学生が利用する社会科の副読本に品井沼干拓の歴史が取り上げられている事もあり、町内の小学校だけでなく、近隣市町村からも見学で訪れる事が多くなっています。

古くからの集落が大きく形を変えず残っている地域では、旧道沿い、集落の末端に庚申塔や馬頭観音が残されています。

文化財を活かしたまちづくりのために

1．基本構想策定に当たって

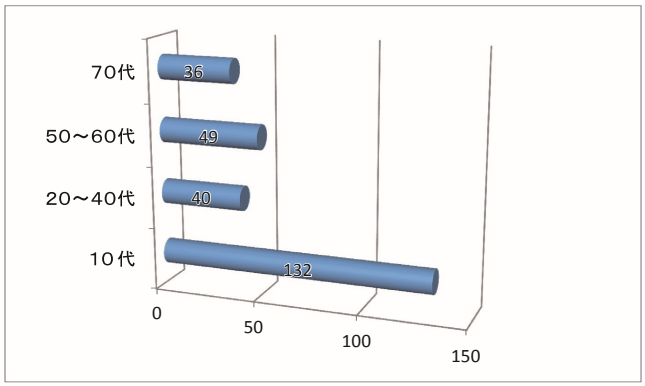
内閣府の世論調査では「伝統的な祭りや歴史的な建物などの存在が、その地域の人々にとって地域への愛着や誇りとなる」との考え方について、どのように思うか尋ねたところ「そう思う」という回答の割合が 90.1%という数字が出ています。

また平成 29 年度 9 月から 11 月にかけて、歴史講座の受講生・歴史街歩きの参加者、松島高校観光科の学生、町内幼稚園の保護者などを対象にアンケートを実施しました。

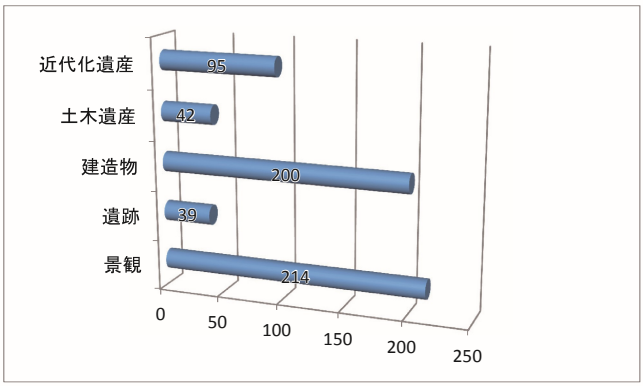
町が取り組むべき施策について尋ねた結果、最も多く望まれているのは、歴史的建造物を活かした街並み景観の整備でした。続いて史跡巡りツアーの充実、総合的な博物館の整備、ユニークベニューの企画などが求められていることが分かりました。

歴史文化基本構想においても最終的な目標として、「町の歴史文化を総合的に理解できる施設の確保」、「歴史的雰囲気を感じることができる街並み整備」を掲げるべきと考えます。

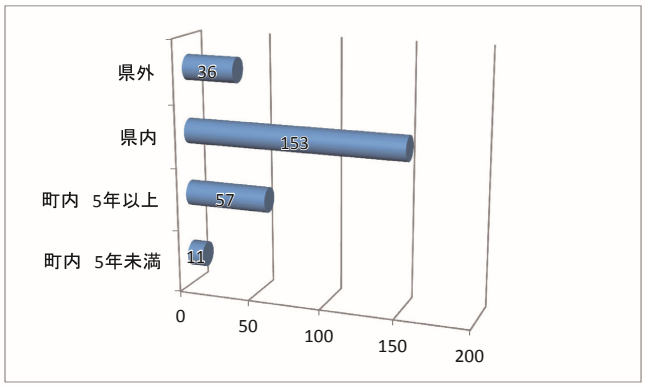
質問１：年齢



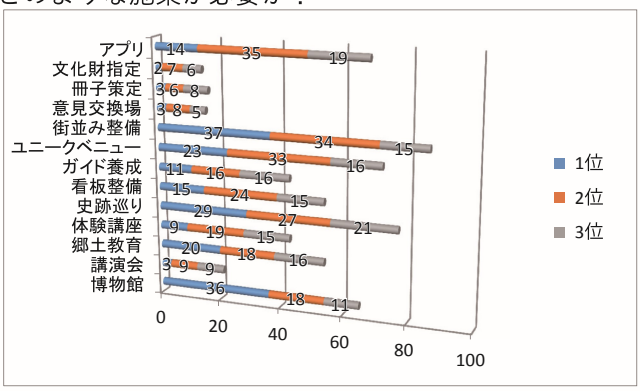
質問３：松島町の文化財として思い浮かぶ物は？



質問２：住まいの場所



質問４：松島町の文化財を保存・活用するために
どのような施策が必要か？



アンケートの結果

2．文化財の保存と活用に関する課題

松島町では町の文化財の保存に対し、継続的に各種調査を進め、新たな文化財指定にも積極的に取り組んでいます。また指定文化財のうち、修理や維持管理に要する経費について、必要に応じて補助を行っています。

文化財の活用については、「歴史文化の継承と創造」を掲げ、豊富な文化財を教育資源・観光資源として活用を図ってきました。

保存に関する課題

- 未指定文化財や指定文化財の周辺環境を含めた保存
- 天然記念物に指定された樹木について、定期的な管理と枯死の防止
- 西の浜貝塚の史跡再整備
- 街並みの景観維持・形成（松島海岸・高城宿）
- 町所有文化財の保存環境の確保
- 防犯・防災対策の充実

活用に関する課題

- 展示公開施設の更新（観瀾亭松島博物館・品井沼干拓資料館）
- 文化財公開機会の増加
- 指定看板の再整備
- ガイド養成
- 一般・子ども向けの副読本の作成
- 街歩きイベントの実施
- アクセスの向上
- 街並み景観の整備
- 観光イベントとの連携

3．保存活用の基本的な考え方と方針

文化財の保存と活用に関する課題については、松島町の「長期総合計画」の計画期間にあわせた平成 38 年度 3 月までを計画期間とします。以下の目標・方針を据え、具体的な取り組みについては、地域住民を主体とした「松島モデル」として推進していきます。

松島モデル

ⅰ 地域住民主体で、ⅱ 未指定を含む関連文化財群や周辺環境を含め、
ⅲ 文化財の保存活用を検討する

基本目標

松島の歴史文化を未来に継承し、新たな価値を創造する

基本方針		短期 平成30～32年度	中期 平成33～35年度	長期 平成36～37年度
Ⅰ：継続的調査の実施	（仮）松島悉皆調査	調査計画の立案	調査着手	調査集約
	指定文化財の現況把握	定期的なパトロールの実施		
Ⅱ：関連文化財群の活用	普及講座の実施	ストーリーごとのリレー講座の企画・運営		
Ⅲ：地域主体の取り組み	地域の歴史出張講座の実施	地域ごとのワークショップ開催	保存活用計画への発展・展開	
	保存活用計画の策定	地域主体の仕組みづくり	計画策定後の体制構築	
		候補の選定・施行	運用と展開	「松島モデル」の確立
	松島ガイド	「ガイド」養成講座の実施	「ガイド」活動の実践	「ガイド」団体の自主的運営
Ⅳ：効果的な情報発信	情報発信拠点の整備	ガイダンス施設の検討	町管理施設の見直し	ガイダンス施設の運用
	活用ツールの充実	「松島ダテナビ」等の活用と展開	新たなAR/VRコンテンツの開発と運用	
	各種メディアの効果的な活用	情報発信手法の検討と整備	新たな活用方法試行	情報発信拠点の整備

用語集

本構想での定義

「**テーマ**」・・・・・五つの大きなストーリーを持つくくり。

「**エピソード**」・・・一定のストーリーを持つ個別の文化財群。中心となる文化財の周辺環境や関連する文化財とで構成され、個別の保存活用計画の対象となるもの。

一般的な用語

ユニークベニュー・博物館や歴史的建造物など地域的特性や特別感を演出できる会場でイベントを開催すること。

近代化遺産（きんだいかいさん）・・・・およそ幕末から第二次世界大戦期までに建設された、我が国の近代化に貢献した建造物。

天然記念物（てんねんきねんぶつ）・・・・動物・植物・地質・鉱物などに関する記念物のこと。

長期総合計画（ちょうきそうごうけいかく）・・・自治体のすべての計画の基本となる最上位の計画。

悉皆調査（しっかいちょうさ）・・・・・対象を漏れなく網羅する調査のこと。

AR ／ VR・・・・・拡張現実（AR）は人の知覚する現実環境を拡張する技術。スマートホンやタブレットのカメラ映像に CG などを重ねて表示させるといった例が多い。対して VR（仮想現実）は専用の機器を使って使用者が仮想現実の世界に入り込んだかのような体験をさせるもの。

奥州の高野（こうや）・・・・霊場として名高い高野山金剛峰寺に例えた表現。

東方浄土（とうほうじょうど）・・・・・浄土とは仏教において一切の煩悩やけがれから離れた清浄な世界のこと。阿弥陀如来の西方浄土に対して、薬師如来の住む東方浄土が想起される。

文人墨客（ぶんじんぼっかく）・・・・・詩文や書画など風流に親しむ人。文化人。

景勝地（けいしょうち）・・・・・・景色の優れてよい場所。

鎮守府（ちんじゅふ）・・・・・・陸奥国におかれた軍政を司る役所。

天台由緒記（てんだいゆいしょき）・・・・天台宗の宗徒が禅宗の宗徒に対し自らの正当性を主張するために記した文書。

都のつと（みやこ）・・・・・宗久という南北朝時代の僧侶が記した紀行文。

松島諸勝記（まつしましょしょうき）・・・・瑞巌寺１０３世住職夢庵が享保元年 1716）に記した文書。

板碑（いたび）・・・・・・・鎌倉時代から室町時代にかけて流行した供養塔の一種。

凝灰岩（ぎょうかいがん）・・・・・・松島の地盤を形成する岩石。基礎や供養塔などに利用されている。

庚申塔（こうしんとう）・・・・・・庚申の日に眠ると体内の虫が悪事を天帝に報告するとの道教由来の信仰から派生した供養塔の一種。

馬頭観音（ばとうかんのん）・・・・・仏教において観音菩薩が変化した仏の一つとされる。江戸時代には交通手段として重宝された馬を供養するための塔が各地に建てられた。

短冊形地割（たんざくがたちわり）・・・・町屋は間口の広さによって課税されたため、間口が狭く奥行きのある地割になったことから残された形。

里地里山（さとちさとやま）・・・・・集落とそれを取り巻く二次林や農地などで構成され、人の手が入ることによって生態系のバランスが取れていることを特徴とする。